

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3127097号
(U3127097)

(45) 発行日 平成18年11月24日(2006.11.24)

(24) 登録日 平成18年11月1日(2006.11.1)

(51) Int. Cl.

E O 4 H 9/16 (2006.01)

F I

E O 4 H 9/16

P

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2006-4994 (U2006-4994)
(22) 出願日 平成18年5月30日(2006.5.30)(73) 実用新案権者 599081288
安田 光昭
埼玉県さいたま市中央区大字下落合101
〇番地
(73) 実用新案権者 591118395
加納 博
東京都豊島区巢鴨5-35-12
(72) 考案者 安田 光昭
埼玉県さいたま市中央区大字下落合101
〇番地
(72) 考案者 加納 博
豊島区巢鴨5丁目35番地12号

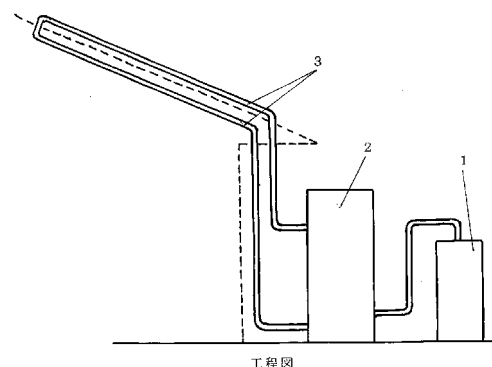
(54) 【考案の名称】 水を電気分解した酸素水素ガスを使った屋上用溶雪装置。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 屋上の溶雪を容易にし、水を電気分解した酸素水素ガスを利用した屋上用溶雪装置の提供。

【解決手段】 水を電気分解した酸素水素ガスで大量の温水を作り、自在な構造の温水パイプラインで溶雪する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

温水ボイラーに水を電気分解した酸素水素ガスを直結し稼動させて温水を作り、温水をパイプラインで屋上に誘導して溶雪を行う屋上用溶雪装置。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

水を電気分解した酸素水素ガスの高熱を溶雪装置に利用する。

【背景技術】**【0002】**

屋上の積雪を雪下ろしをしたり、また屋根の最上部に突起をつけ雪がすべり落ちるような形状にしたり、電気を使った溶雪等がある。

【考案が解決しようとする課題】**【0003】**

水を電気分解した酸素水素ガスを利用した新溶雪装置にする。

【考案を解決しようとする手段】**【0004】**

水を電気分解した酸素水素ガスを利用することで、温水を大量に作り出すことができ、新しい溶雪装置にすることができる。

【考案実施の形態】**【0005】**

水を電気分解した酸素水素ガスを温水ボイラーに導入して燃焼させ、効率よく温水を作り温水パイプラインを設置して循環させて溶雪する。

【実施例】**【0006】**

以下は添付図により実施例を説明する。図1は溶雪装置の工程図である。1は電気分解により作られた酸素水素ガスである。2の温水ボイラーに導入して温水を作り3の温水パイプラインで温水を循環させることで溶雪ができる。温水パイプラインは屋上の形態に合わせた構造にする。

【考案の効果】**【0007】**

本考案の溶雪装置は温水パイプラインを自由な構造にでき、酸素水素ガスを利用することで他のエネルギーより安価に溶雪装置を作り出すことができる。

【図面の簡単な説明】**【0008】****【図1】** 水を電気分解した酸素水素ガスを利用した溶雪装置の工程図。**【符号の説明】****【0009】**

- 1 水を電気分解した酸素水素ガス
- 2 温水ボイラー
- 3 温水パイプライン

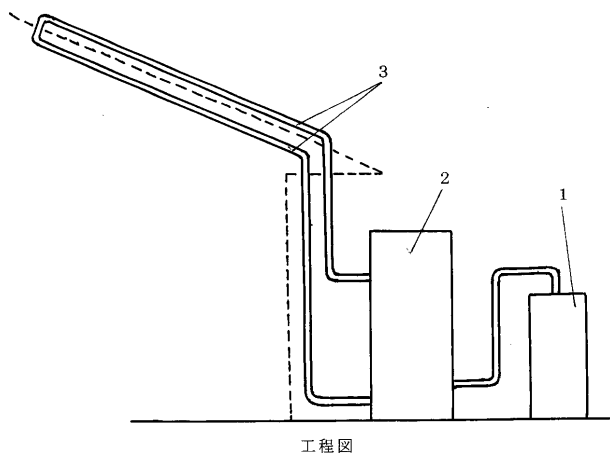
10

20

30

40

【図 1】



【手続補正書】

【提出日】平成18年8月28日(2006.8.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】

水を電気分解した酸素水素ガスを、温水ボイラーに直結し燃焼させ温水を作り、その温水を屋根の部分全体に一定の間隔でパイプを敷き、パイプは全部一本につながっていて、パイプの最後また温水ボイラーに戻り、温水が循環するようになっている構造を特徴とする酸素水素ガス温水屋上溶雪装置。